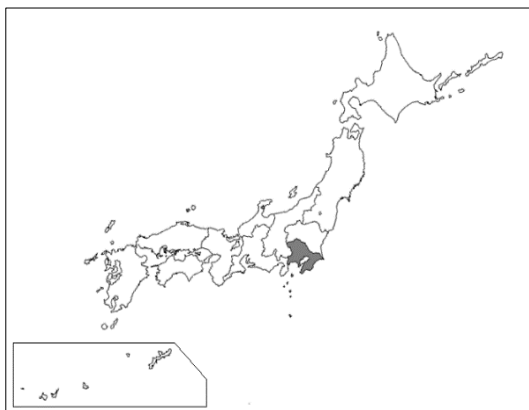


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

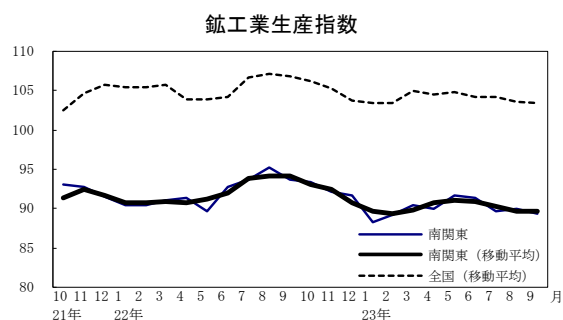
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年9月)	今回 (令和5年11月)	
景況判断	緩やかに回復している	一部に足踏みがみられるが、緩やかに回復している	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏みがみられる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きに足踏みがみられる。

7-9月期の鉱工業生産は、前期比1.5%減となった。月別にみると、7月は「電子デバ・電気・情報通信」が減少したこと等により前月比1.8%減、8月は「電子デバ・電気・情報通信」が増加したこと等により同0.2%増、9月は「汎・生産・業務用機械」が減少したこと等により同0.7%減となった。



- (備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。
南関東の最新月は速報値。
2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.2	▲1.7	1.5	▲0.1	0.0	▲1.5
輸送機械	14.1	8.7	▲2.7	▲2.0	0.1	3.9
汎・生産・業務用機械	13.7	3.9	▲3.5	▲2.0	▲2.3	▲5.1
電子デバ、電気・情報通信	12.6	3.6	▲6.9	▲7.9	2.0	▲2.3
食品・たばこ	12.4	1.3	—	▲0.6	3.8	—
鉱工業	100.0	1.9	▲1.5	▲1.8	0.2	▲0.7

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

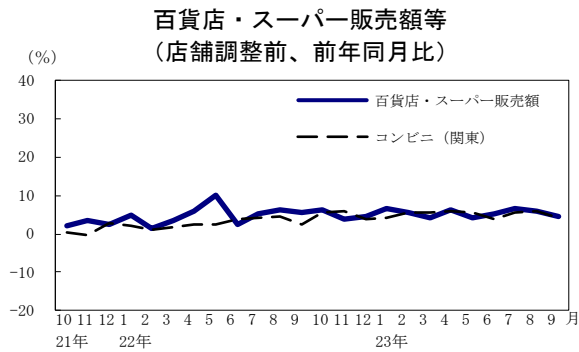
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

7－9月期は前期比0.6%増となった。月別にみると、7月は前月比0.5%増、8月は同0.4%増、9月は同0.3%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7－9月期は前年同期比5.7%増となった。月別にみると、7月は前年同月比6.6%増、8月は同6.0%増、9月は同4.5%増となった。



	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	0.6	0.5	0.4	▲0.3
百貨店・スーパー(*2)	5.7	6.6	6.0	4.5
コンビニ(*3)	5.2	5.5	6.0	4.1
乗用車(*4)	14.7	16.0	20.4	9.7
(季節調整値)(*4)	▲2.9	▲5.2	2.6	▲7.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

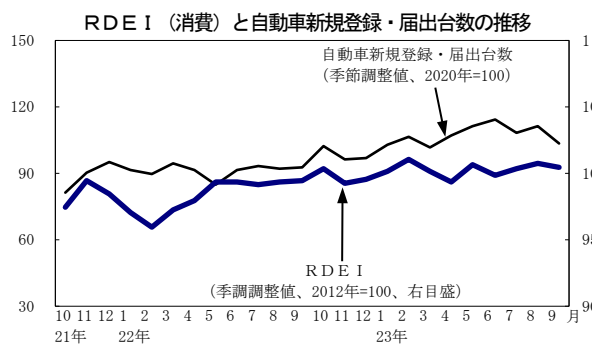
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡）の値。

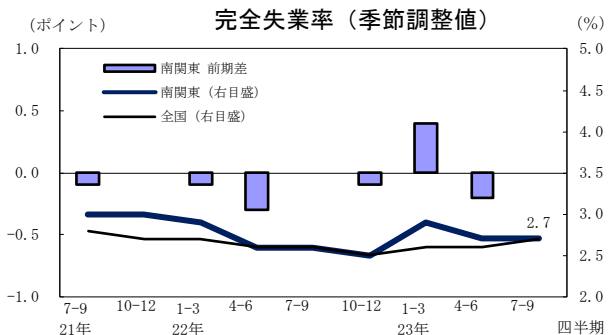
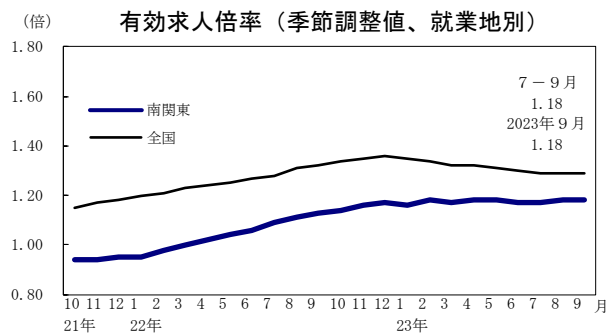
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。一般労働者の定期給与は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期と同水準となっている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計動向 関連	□
○			・行動制限のないなかで秋のイベントが開催され、人出も大変多く、大盛況に終わり、売上につながっている。また、猛暑がやっと落ち着き、良い気候になってきて、人の動きもあり、来客数も少し伸びている（一般小売店 [和菓子]）。
▲			・購入を慎重に考える客が増えている。物価の上昇にも影響を受けている可能性がある（その他サービス [保険代理店]）。
企業動向 関連		□	・価格転嫁ができていない企業もあり、依然として製造業の単価はなかなか上げられない状況が続いている（繊維工業）。
		○	・ホテルの宿泊需要は引き続き堅調であり、価格も上昇基調にある（不動産業）。
		▲	・最低賃金の大幅な上昇に伴い人件費は上がるが、既存の契約金額の値上げが伴っていない。新規物件の契約金額は現在の賃金水準になっているが、古い物件については値上げができなければ赤字になってくる（その他サービス業 [ビルメンテナンス]）。
雇用 関連		□	・新規求人数は、全体では減少しているものの、情報サービス、貨物運送、技術サービス業など大幅な求人数の増加がみられる業種もあり、求人全体として低迷している感はない（職業安定所）。
	○	・当社内及び同業他社でも、中途採用の意欲が高まっているが、各部門共になかなか採用予定数に満たない場合が多く、売手市場であることを感じる。そのため、採用条件として、給与面での待遇が良くなっている（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴 コメント			□：3か月前からの変化は特にない。求人数も業界によって差はあるものの、全体的には横ばい傾向となっている。空港関係や観光産業の求人は常に増加傾向にある（人材派遣会社）。 ▲：物価高の傾向が続くなかで、賃金上昇が追い付かず、食品を中心とする値上げは継続中であるため、客の財布のひもは固い（その他小売 [ショッピングセンター]）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向 関連	□	・物価高に伴い新車の価格も上昇気味である。現状維持ができればよいのではないかと（乗用車販売店）。
		○	・法人関連を中心に徐々に忘年会の間合せも増えつつあり、コロナ禍明けの反動景気の基調を感じつつある（高級レストラン）。
	企業動向 関連	□	・物価の上昇もあり、一進一退の動きが続く見込みである（通信業）。
		○	・電子部品、特に、半導体製品の需給バランスが改善されつつあり、生産数が徐々に回復することが予想される（電気機械器具製造業）。
	雇用 関連	□	・物流センターは各地で開設されており、軽作業要員の需要は継続的に発生する見込みである。派遣を使わないという回答もあるが、過去の傾向では自社で集めきれず、結局は派遣会社へ依頼するケースが多い。ロボット導入や機械化は進んでいるものの、現時点では人員削減にまでは至っていない（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント			○：新型コロナウイルス終息後初めての年末のため、前年比では良くなると見込んでいる。現在も飲食テナントが衣料や雑貨よりも好調であるため、クリスマスに向けても売上、来客数共に期待できる（百貨店）。 ▲：先行きが見えない資材の値上がりは今後も続いていくと考えるが、価格交渉がスムーズに進むとは考えにくい（出版・印刷・同関連産業）。

(D I) 現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

